



**Q** 毎日忙しいけれど、いつ読めばいいの？

**A** 毎日歯を磨くように、一日5分でも絵本を通じて子どもと向き合う時間を取れるとよいですね。親の肉声で読んであげることが大切です。絵本の心地良さを一番最初に伝えられるのは父母。一对一の読み聞かせをすることで、相手の心に話が沁みていくのです。

**Q** 同じ本を何度も読んでほしいのだけど……

**A** 子どもが満足するまで繰り返し読んであげること、子どもには親に受け止めてもらった安心感、信頼関係が生まれます。1回目と2回目、3回目……何十回目と、読んでもらった時によって話の感じ方も違います。子どもは、大好きな大人が読んでくれる心地よい声を聞きながら、物語の世界に浸ります。そして空想の世界に遊び、想像力を膨らませ、期待感やもっと知りたい気持ちなど様々な感情が生まれます。幼い頃から膝に抱かれ読んでもらうなどの絵本を通じた触れ合い、心の通い合いは、子どもに安心感をもたらす豊かな感性を育みます。

**Q** 科学の絵本や図鑑はどう読み聞かせすればいいの？

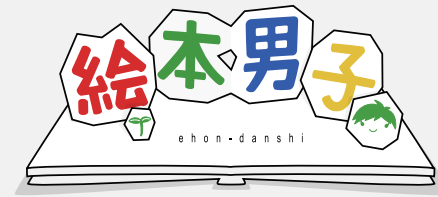
**A** 考え方は物語絵本と同じです。「知識を増やそう」「理科教育の準備のため」など、すぐ役立つ・ためになるとせっかちに考えないほうがよいでしょう。それよりも、子どもの好奇心や興味をどれだけかきたて、楽しめるか、面白がらせるかが何よりも大切です。遊ぶことは考えることであり、創造性を発揮するためにとても大切です。また、海、地球、宇宙などの図鑑や、『絵で見る日本の歴史』などは大人が見ても面白く、子どもと一緒に見て楽しめます。



### 科学の絵本紹介

しっぽのはたらき / わたし / あなたのいえわたしのいえ / はなのあなのはなし / たんぼぼ / はじめてであうすうがくの絵本 / みんなのうんち / 野の草花 / 木の木 / 赤ちゃんの話 / 絵で見る日本の歴史 / 海（図鑑） / 地球（図鑑） / 宇宙（図鑑）

子どもはお話を聞かせてもらうのが大好きです。聞いた言葉や見た絵から物語の世界に感情移入し、自分がお話の一部になったように想像を膨らませるのです。読み聞かせは子どもの本に対する関心を高め、自主的に読書を始めるきっかけにもなります。さらに言語への興味、将来的な学習意欲にも繋がる、非常に大切なものです。



## ～子どもに合わせた読み聞かせのポイント～

監修：大竹 龍（現役保育士・絵本男子）

### なぜ読むか 読んであげるか

読むことで育つ想像力は、自分を育て、人を理解する力を育てます。  
読むことで繋がる大人と子ども……

### 絵本を通じてお子さんと向き合う時間を

大好きなお父さんお母さん祖父母の方の膝に抱かれ  
絵本を読んでもらっている子どもは、  
なんともいえない安心感に包まれ幸せな表情を見せます。  
家庭で絵本を読んでもらう楽しみや嬉しさの積み重ねが、  
子ども達の心の大きな栄養となり、豊かな心を育てていくのです。

## 子どもが絵本から貰い受けるもの

子どもの日常は、平凡な日々の積み重ね。それはとても大事なことだけれど、物語には「非日常の面白さ」がぎゅぎゅ詰まっています。お話は、子どもに元気を与え、暮らしに彩を添え、考えたり、感じたりする心を育てます。

## 人に出会う

子ども達が暮らしの中で出会うのは、わずかな人々です。しかし物語の中には、不思議な力を持った人や、賢い人、いい人など、見知らぬ人がたくさんいます。もちろん、いい人だけでなく、うそをつく人やだます人もいます。成長の過程でこうした人々に出会うことは、生きる上でこれほど大きな支えや励みになることなのでしょう。

## 知ることの喜びや 考えることの楽しさを体験する

子ども達は好奇心に溢れています。虫や花の名前、育て方、なぜ雪が降るのか、どうして氷が張るのか、などなど……。大人にも答えられないことだらけです。答えられなくても、一緒に調べてくれる大人が側にいたらどれほど嬉しいか。図鑑や科学絵本は保育の必需品と言えます。

## 遊びが生まれる

なぜ、ごっこ遊びが生まれるのか。子ども達は、真似をしたくなるような出来事に出会うと、それを遊びになぞります。本の中には、やってみたくするような遊びの種がたくさん隠れています。子どもの遊びのイメージを広げてやりましょう。劇遊びなどは、子ども達の好きな絵本を題材にすれば、絵本の世界がもっと身近になります。

## 言葉に出会う

私達がどれほど美しい日本語で語りかけても、楽しくて、面白くて、新鮮な言葉を伝えることには限界があります。しかし絵本の中には、響きの美しい言葉や豊かな表現が溢れています。

# 年齢別 絵本選び・紹介

## 2~3歳

★ 日常生活体験が少しずつ積み重なってくると言葉も次々と自分のものになり、自分から表現することに興味を覚えだすため、子どもの日常生活に沿った絵本がおすすめ

- ★ 3歳になると急激に言葉に対する力が発達するため、絵本体験の革命期となる
- ★ 絵本の中の人物になったような気持ちで絵本の物語の世界へ入り込めるものも良い

### 絵本紹介

どうすればいいのかな？(くまくんのシリーズ) / みんなうち / いやだいやだの絵本 / あーんあんの絵本 / かばくん / おやすみなさいのほん

### 繰り返しが大切な昔話絵本

おおきなかぶ / てぶくろ / 3びきのやぎのらがらどん

### 創作の物語絵本

はなをくんくん / ちいさなねこ / たろうのともだち / ぞうくんのさんぽ / ぐりとぐら

### 見た目だけではない絵本

いたずらきかんしゃちゅうちゅう / もりのなか / だるまのハリー  
とこちゃんはどこ (優れた画家は絵の細かいところにも注意を払って、文章には書き表せていない物語の色いろな部分を絵で語って子どもの期待にこたえます)

## 4歳

- ★ なんといっても物語絵本が主役
- ★ 4歳までに絵本で創造性「次のページを想像する楽しさ」を育む。想像力がないと読書はできず、絵本がその想像力を育てる
- ★ 言葉の響きを覚え、暗記し夢中になれる1冊を選ぶ

### 絵本紹介

おおかみと7匹の子ヤギ / 3匹のくま / 3びきのこぶた

### 想像力・空想力を育てる絵本

ももたろう / はじめてのおつかい / こすずめのぼうけん / いたずらこねこ / アンガスとあひる / ティッチ / 100まんびきのねこ / ピーターラビットのおはなし

### 言葉の響きを覚えて夢中になれる絵本

じゅげむ

## 5~6歳

- ★ 4歳児の延長として、物語絵本が最も必要とされる時期
- ★ あまり先回りをして次つぎと絵本を与えようとせず、夢中になれる1冊を見つけること
- ★ 長い物語(童話)を読み、毎日少しずつ読んでもらうことを楽しむ

### 絵本紹介

一寸法師 / ふるやのもり / だいくとおにろく / スーホの白い馬 / ねむりひめ / おふろだいすき / わたしとあそんで / おやすみなさいフランス / ラチとらいおん / かもさんとおとおり

### 童話への橋渡し役の絵本

金のがちょうのほん / おしゃべりなたまごやき / おおきなおおきなおいも / あおい目のこねこ / はじめてのキャンプ / BORKA

### 長い物語(童話)

いやいやえん / ももいろのきりん / もりのへなそうる / ロボット・カミィ / くしゃみくしゃみ天のめぐみ / エルマーのぼうけん

## 1~2歳

- ★ 子ども達の言葉の世界を広げる意味合いを持つ
- ★ 生後10か月を過ぎると絵本の世界に入っていけるようになる

### 絵本紹介

くだもの / いちご / まるくておいしいよ / もうおきるかな? / どうぶつのおかあさん / どうぶつの子どもたち / ぶーぶーじどうしゃ / ずかん / じどうしゃ

### 遊びを楽しむ絵本

でてこいでてこい / たまごのあかちゃん / きんぎょがにげた

### 音の響きを楽しむ絵本

ころころころ / ぶふぶふぶふぶ / かささしてあげるね / おーいおーい / がちゃがちゃどんどん / まるまる

### 言葉を聞く楽しさから物語絵本へ

たんたんぼうや / おつきさまこぼんは